

授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	東金市立鶉嶺小学校
-----	----------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和3年度の調査において、「読むこと」の領域に課題があることが分かった。「必要な情報を読み取ること」と「与えられた条件を満たして記述すること」が難しく、「文章を読み取れず、意味を理解できていないので、書けない」ということが分かった。「読んで考えて、書く力を付ける」ことが本校の児童の課題である。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 書く目的がとらえられるように導入を工夫し、魅力的な学習課題が設定できれば、自ら考え主体的に学ぶ児童が育つであろう。
- 目的に合った表現の仕方について話し合う場を設定すれば、互いに表現を磨きあい表現力の向上が図れるであろう。

3. 具体的な実践

- 第5学年「発信しよう！鶉嶺小SDGs」【別添資料1】
 - ・「食やSDGsについて考えたことを意見文にして発信する」という学習課題を設定した。児童は、3つの推敲の観点をもとに説得力のある意見文にするにはどうしたらよいか、付箋を用いて話し合うことで、表現を磨き合うことができた。
- 第4学年『「4年3組防災ブック」をつくろう』【別添資料2】
 - ・「自然災害についてどう備えるか、調べたり考えたりしたことを意見文に書く」という学習課題を設定した。地域や家族のことを考えて、どの情報を理由や事例として挙げるのが有効かを話し合いながら、実際に役に立つパンフレットを作成することができた。
- 第1学年「なかよしカレンダーをつくろう」【別添資料3】
 - ・「友達のよいところを見つけて紹介する文章を書き、カレンダーを作る」という学習課題を設定した。「おわり」に感想を書くために、どんな観点を書いたらよいかを話し合う場面では、「やる気」「ほめほめ」「わくわく」という3つの観点到気付かせることで、語彙を増やし、表現の幅を広げることができた。

4. 成果

- 魅力的な学習課題の設定をすることで、書く目的をしっかりと持つことができ、最後まで粘り強く書くことができた。
- 文章構成や表現の効果などについて、視点を明確にして話し合うことで、目的に合った表現に工夫することができた。
- 書くことに苦手意識のある児童が作品を完成させたことで、自信を持つことができた。

◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 宮田 利絵）

○児童の実態を的確に分析し、課題を明確にして研究を進めていた。児童が目を輝かせて「やってみたい」と思うような課題設定や、真剣な眼差しで相互の表現を吟味し合う話し合い活動等、表現力育成のために工夫を凝らした仮説検証授業が展開された。全教職員が思いを共有し、明確な視点を持って児童に寄り添い、思考力、表現力の育成に迫っていた。